

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年 3月

事業所名 浜松市根洗学園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	9	<ul style="list-style-type: none"> ・らいおんグループは中央に仕切りをして、活動部屋・給食部屋と分けて生活できている。 ・相談専用の部屋、ことばの教室専用の部屋など欲しい。毎回、空いている部屋を探したり、狭い部屋で行っているから。 ・親子通園の日は少し狭く感じるが、普段は適切だと思う。 ・1人当たりの面積としては適切であるが、ももとみどりでは体格の違いがある。【工夫】コーナーやグループ分け等でスペースを確保している。 ・くまの部屋はスペースが足りない。 ・限られた環境の中で時間を決めたり子どもに合わせた活動ができるようにしている。 ・教材庫と言語訓練室が同じ。部屋が足りない、狭いと感じる。 ・雨天時はグループ間で調整し合い共有スペースを使用しているが、廊下などで過ごすこともある。 ・発熱児の対応する部屋がなくて困っている。 ・年長児の部屋がもう少し広いと身体を動かす活動をもっと取り入れやすい。 ・子どもの育ちに合わせてだが、1部屋8名程が、一番子どもが落ち着く環境の印象がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で、療育活動の2ヶ月前には使用箇所の確認を行っている。 ・児発事業の療育・行事だけではなく、放課後等デイサービス、発達支援事業施設型、相談、また施設開放などの申し出を調整しながら療育スペースを整えている。 ・発熱児等体調不良児の対応スペース確保は課題である。現状では、その時の空き部屋を使用し対応にあたっている。

環境・体制整備	2	職員の配置数は適切である	13	<ul style="list-style-type: none"> ・らいおんグループは4名で適切でした。 ・グラウンドに行く時に段差があったり、トイレが狭かったり、不便、危険と感じるところがある。 ・人が全く足りない訳ではないが、もう少し人がいたら日々の忙しい雰囲気は軽減されると思う。 ・1:4より多い配置となっているグループが多い。必要かの見極めや1:4でやれる工夫などしていけると良い。 ・手術後などで個別対応が必要な児に対して1人必要と思われるが、確保できるか不安がある。 ・4:1に加え、子どもの様子、支援内容を考え加配している。 ・曜日によりバラつきがある。また、児の降園後、事務的なこと、療育計画に沿った準備をする職員が少なく、リーダーへの負担が大きい。 ・人数がいても、穴埋めになってしまうと落ち着いて療育を行えない、職員に当分余裕がなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・人力的には配置基準に従い配置を行っている。 ・療育、教材準備等は計画に基づき全体業務職員へ依頼する等の準備を行っている。 ・応援などの補助職員へは、療育支援時のポジションや役割において、明確な指示を出せることが大切と考える。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	<ul style="list-style-type: none"> ・室内に水道があると良いと感じます。 ・毎日の清掃等は、協力して行っている。 ・段差が多い。 ・ジャバラ式の扉(西棟通路)は児童の施設にあっていないように感じる。 ・感覚過敏な児もいるなかで、トイレがバリアフリーではなく、スリッパを履かなければならないのは疑問に思う。 ・今後、車イスなどを使用する子どもが入園した場合、玄関やトイレなどのバリアフリー化が必要と思われる。 ・『情報伝達等への配慮が適切』の部分においては職員間で検討することが必要と考える。 ・ばななのLEDがない。 ・ロッカー、タオルかけ等、自分のマークを貼ることで分かりやすい。 ・トイレのペーパーの位置や手すりの位置が少し高かったり遠かったり、児により補助が必要。 ・打ち合わせとデイリーで個々の連絡は行っている。 ・トイレの手洗い場を増やしていただけると助かります。 ・棚など改善してほしい点がある。 ・南棟玄関はバリアフリーではないので配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の老朽化により、バリアフリー化されていない箇所には支援者の配慮が必要。利用者にとって使いやすい視点で、環境を整えていくこと市へ要望を伝えていくことは引き続き必要。 ・シンボルマークやマスキングテープを活用した構造化による配慮は、利用児に分かりやすい支援となっている。 ・情報伝達については、館内の療育現場と事務所、または療育支援室同士の連絡もスムーズにやり取りができる電話整備の環境が令和4年3月に整えられた。

	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	16	6	<ul style="list-style-type: none"> ・日々消毒等はしているが、使用した物をその日に片付けられていないことが多かった。 ・2部屋を間仕切りし、活動によって使い分けられました。 ・毎日、掃除をし清潔を保つように努力しているが、老朽化や施設全体に暗さを感じやすい。 ・毎日掃除、消毒を行っている。 ・清掃、消毒はしっかり行うことができている。 ・トイレを明るくしてほしい。 ・環境設定を行っていきたい。 ・トイレが古く、冬場寒いため、子どもたちにとって使いにくいように感じられる時があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共スペースは使用后、支援室は園児降園後にチェックリストを基に噴霧消毒を実施している。館内支援室、プレイルームなどの共有スペース、各棟玄関等には消毒薬を設置している。 ・冬季、トイレは床暖房をつけている。状況によっては(保護者と参加する発達支援広場等)ファンヒーターをつけ、対応にあたっている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	18	2	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務形態等により、限られた少人数になってしまうことが多かった。 ・毎日行っています。 ・業務改善のためのPDCAサイクルが存在しているのか分からない。 ・『広く職員が参画』の部分は時間によってベストスタッフさんが参加できないので、なるべく参加できるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育、事業等の業務として職員は参画し、実践している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	18	2	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年行っています。 ・保護者からの評価、アンケートを読み合わせる時間があった。 ・春休み前など特殊な日課、給食などになる場合の案内などを早めに行った方がよい。 ・年に一度アンケートを実施。合わせて日々アンテナを高く意向を把握している。 ・アンケートを行い、保護者の率直な意見を得ている。それに対する返答はしているが、具体的に実施されているかが課題。 ・迅速に解決できる所は行えるよう努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年実施し、保護者へも集計報告を行っている。アンケート集計後は学園からの回答として報告を行うため、職員間で意見や回答の読み合わせを行っている。 ・ハード面において改修できることは迅速に行い、大規模な物などは、市へ報告を行っている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・公開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート内容の報告は利用者へ行っている。 ・また、改善内容や報告も含め法人のホームページへ掲載している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	17	2	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に応じて研修などを行っている。 ・分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者による外部評価は実施していない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー研修、講師を招いての研修を行っています。 ・研修が多い。 ・継続的に行っている。 ・月に1回以上は研修を行っている。 ・園内研修が月2回、また、外部研修にも参加できる機会が十分にあるように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修は定期的実施している。また、復命書を3日以内に提出している。

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・面談で、保護者のニーズを最優先しています。 ・複数の職員で見立てた上で作成している。 ・生活面と運動面でのつながりがないもの(どちらかが目標が高い等)もある。保護者のニーズを、子どもの発達段階を踏まえながら伝えられるかに課題を感じる。 ・グループ職員間でも情報を共有して支援計画を作 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで個別支援計画検討会を実施し、保護者との面談に臨んでいる。面談で個別支援計画の見直し、作成に向けての確認を行い利用者のニーズを把握している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	17	2	<ul style="list-style-type: none"> ・太田ステージ、KIDSで実施。 ・分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太田ステージ、KIDS乳幼児発達スケールをベースに実施している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ST、OTなど様々な職種の観点から支援を考え、行っている。 ・分かりません。 ・ガイドラインについて職員間で一度学ぶことが必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援ガイドラインに基づき実施している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	18	2	<ul style="list-style-type: none"> ・不十分などところがあると思う。 ・日々の支援とその時の児の姿を書き記している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援計画に沿って支援を展開しているが、具体的なアプローチ方法の共有認識が支援にあたる職員に必要。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	19	2	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で意見を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループリーダーを中心に活動プログラムの立案をチームで行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の初めに工夫して計画し、見直しも行っています。 ・自由あそびでは毎日同じようなおもちゃであそんでいる姿が見受けられる。 ・その時の子どものあそびを見て日々の活動プログラムに生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちやあらわれに見合った、玩具や教材教具の提供は適時意識することが必要・大切と考えている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	20	0		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の項目に個別活動(基本的生活面等)、集団活動(集団あそび、発表会等)の計画・あらわれを記している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	20	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日行っています。 ・細かく打ち合わせし、不備の無いように努めている。 ・短い時間であるが行っている。 ・打ち合わせに参加できなかったベストスタッフも必ずデイリーに目を通して確認している。 ・バス添乗で打ち合わせに関われない時など、デイリーを読んで分かるよう工夫して下さっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児の受け入れ前に打ち合わせ全職員で実施している。バス添乗業務等、打ち合わせに参加できない職員が支援内容を把握できるように、デイリーファイルの確認が意識できている。

18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	20	0	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ全員で確認しています。 ・些細な気付きも共有するようにしている。 ・短い時間であるが行っている。 ・時間を使っていくことと内容(ポイント)をしぼっておくこと必要である。 ・業務の関係でグループ職員がそろっての振り返りが難しい日もあるが、翌日の打ち合わせや会議等で確認できているように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援にあたった職員で振り返りを行っている。また、バス添乗やその他の業務で参加できない場合には、独自にデイリー等の振り返り用紙を記録する、翌日に申し送る等のフィードバックを行っている。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	20	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのやりとりも記録している。 ・記録を書くだけになっている気がする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当日に利用児の「行動の記録」「保護者とのやりとり」等を記録している。記録内容によっては施設長や児発菅に報告があげられている。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	19	1		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画検討会を定期的実施し見直しの必要性を検討している。また、必要に応じて適時、支援内容の検討や見直しを行っている。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	19	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース担当が全て出られていないのでは。情報は共有しているため、必ずしも担当でなくても良いと思う。 ・あれば必要な職員が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当職員又は、当該グループのリーダーが対応している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	19	1	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者同士で、どういう方向性で進めていくか足並みをそろえるようにしている。 ・何かあった時に連携しているが、それだけで良いのかと思う時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健機関等と定期的に、連絡会を実施している。関係機関より求められる情報に回答したり、直近の様子を伝える等の情報交換を行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	-	-		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	-	-		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	20	0	<ul style="list-style-type: none"> ・併行通園先の幼稚園への訪問、情報共有を定期的に行っている。 ・転園児に対する支援が少ない。今後は引き継ぎの会議等を設定していけると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援サービスとしての文書・口答引継ぎ、または保育所等訪問支援事業等で対応をはかっている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	19	1	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有はしているが相互理解まではいっていないと考える。引き継いだ後、その後どうか、もう一歩つながっていくことで相互理解につながると思う。 ・年長利用児全員の引き継ぎを行っている。 ・かけはしシートが活用されていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援サービスとしての文書・口答引継ぎ等で対応をはかっている。また、就学後には学校主催の「幼保小連絡会」や保育所等訪問支援事業等で対応をはかっている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	16	4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナということもあり、あまりできていないと思う。他の児発に見学に行き、学びたいと前から思っている。 ・研修で一緒になることはあっても、連携することはほとんどないのでは。保育所・巡回連絡会や、自立支援会議等行うが、全ての職員は対象でない。 ・3ヶ月に1度程度研修がある。 ・知っている限りではないです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の児発・相談支援事業所等で構成される、児童発達支援事業所連絡会、児童発達支援研究会等で講習、研修を実施している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	20	0	<ul style="list-style-type: none"> ・三方原幼稚園との交流 ・学年が限られているものの地域交流の機会は年4会程有り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼稚園と年間5回程、交流保育を実施している。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	12	7	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない。 ・知っている限りではないです。 ・実態が良く分かりません。すみません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自立支援協議会、子ども部会の会員として会合には毎回参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	20	0	<ul style="list-style-type: none"> ・気になることは電話や直接話して、共有するようにしている。 ・生活記録、おたより帳を活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活記録表は毎日、おたより帳は適時保護者とやり取りを行っている。必要に応じて電話でのやりとり、面談を設ける機会を設けている。

	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	20	1	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者だけでなく、職員も受けることで共通理解につながると思う。また、保護者の方がどんなことを学んでいるか、またそれを含めた面談ができると思う。 ・入園時のみだけなので、その後のフォローとしてのペアレントプログラムがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前の保護者を対象にペアレントプログラムを実施している。また、順次職員も参加し家族支援の必要、大切さを認識している。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	18	2	<ul style="list-style-type: none"> ・今回アンケートで不足の意見がいくつかあったため、分かりやすい丁寧な説明は必要を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用希望者の利用開始前に行っている。適切な説明書として整えておくため、年に一度は市役所と内容確認を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	19	1	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりません。 ・ガイドラインについて職員間で学んでいくこと必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との面談では「児童発達支援計画(個別支援計画)」を提示し、支援目標及び具体的な支援方法を説明し、同委の機会を設けている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	20	0	<ul style="list-style-type: none"> ・おたより帳は1w以内の返却を心がけ、時には電話で対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援報告(計画)などのモニタリングは、年間2~3回定期的実施している。また、その機会に保護者の相談に対応し必要な助言や提言等を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	18	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりクラブを企画しました。 ・コロナ禍もあり、保護者同士のつながりは薄いように感じる。 ・会を催しても参加が減っており、「連携を支援」となると難しいのか・・・？仕事をしている方や、インターネット、ママ友からの情報も得やすく、ここで連携を作らなくても良いという考えの方が多いのではないか。 ・コロナの関係で支援の仕方を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染状況の影響を受け、保護者会の活動は縮小傾向にあるが、保護者会担当職員を配置し、保護者同士の連携を支援している。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	18	2	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度面談を行いました。 ・保護者にすぐに対応できない時があったので、迅速に対応できるシステム作りが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談や申し入れについては、グループ職員からリーダー、その後主任、児発管、施設長へと報告があがる流れとなっている。必要に応じて、電話対応や面談を実施している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	20	0		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ便り、学園だよりを月に1度発行している。翌月の予定掲載、行事の報告等を発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	20	0	<ul style="list-style-type: none"> ・お手紙に掲載する写真にも配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時、その後は年度の変り目(年に一度)に「プライバシーに関するアンケート」を実施し、写真等の掲載可否を確認している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	19	1	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語理解の難しい保護者の配布文書にはルビを振る等の個別配慮を行っている。

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	15	4	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、コロナで運営が難しかった。 ・コロナでできていない。落ち着いたら、以前のように、運動会や子どもの日など、地域の人と交流したい。 ・コロナ禍のため図れていない。 ・コロナの中、工夫していくこと必要(やることも含めて) ・コロナ感染予防のため控えています。 ・コロナで機会は減ったものの、人数を少なくしたり工夫して地域の方に行事に参加していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の招待、委嘱など地域住民の方々との事業運営を計画しているが、双方の感染防止対策を確認しながら可能な限り実施している。
--	----	------------------------------------	----	---	--	---

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	19	2	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練は定期的に行っているが、不審者が出た場合を想定した訓練は、実際この対応でいいのか？と不安に思う内容だった。 ・こんなときどうするのか？マニュアルの周知は職員間でやっていくこと必要。 ・マニュアルが作成されていない。あいまいさがある。 ・毎月想定を変えて行っている。 ・園としては実施していますが、自分のマニュアル周知はまだ足りないと感じています 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応マニュアル(避難経路図等)は年度の変わり目に資料を配布し周知している。発生を想定した訓練を毎月実施している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	22	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、想定を変えて行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月一回、訓練を実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	22	0	<ul style="list-style-type: none"> ・健康カードを利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時に既往歴、アレルギー、服薬状況、てんかん等を記入できる健康カードを保護者に作成依頼し、園で管理している。年に一度(進級時)の再確認(更新)の意味合いも含め保護者に確認依頼している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	22	0	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーに対して慎重に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーのある利用児に対しては、保護者より医師の指示書を提出してもらい調理、担任はもとより、全職員で周知している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	15	5	<ul style="list-style-type: none"> ・報告はしているが、事例集はない。 ・事例集は作成されているかもしれないが、共有されていないので分からない。 ・事例集か(?)ですが、終礼での報告をとりまとめています。 ・一覧は1ヶ月終礼簿に挟んで皆に共有できるようになっている。 ・知っている限りではないですが、終礼にてヒヤリハットの報告はある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの報告はその日のうちに終礼で行っている。事例集としては1ヶ月の報告を取りまとめファイリングを行っている(事故ケガ報告書と共に保存している)。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	22	0	<ul style="list-style-type: none"> ・研修も行いました。 ・今後も学園の課題の1つとしていくと聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権、権利擁護、虐待などの不適切対応を予防する研修を定期的実施している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	20	0		<ul style="list-style-type: none"> ・通園バス内チャイルドシートを使用する園児の安全確保のため、保護者と面談を行い同意を得て、補助ベルトを使用した。